

0歳の被爆者

田村 富子（当時生後8か月）
札幌市



心ある皆様、70年を経て初めて上げたこの老母の小さな声に振り向いて下さい。

私が広島で被爆したのは爆心地より1.6km、まさにあのキノコ雲の真下で、生後わずか8カ月の時でした。70年も前のことで、皆様は遠い昔の出来事と思われていることでしょうか。その70年という長い期間、私はずっと後遺症に苦しみ続け、1日たりとも原爆から解放された日はなかったのです。原爆は一瞬のうちに何十万人という人々を殺戮しました。そして家の下敷きになり、大けがをして悲劇は終り、ではなく、放射線による様々な後遺症で死ぬまで苦しみは続くのです。

私の身内は、祖母がガンですぐに亡くなりました。被爆時8歳だった姉もガンで苦しんで、幼子たちを残して36歳の若さで壮絶に逝きました。被爆時0歳だった私は、酷い後遺症に苦しんできました。必ず50歳までには死ぬだろうと、自らの生命の限界を恐怖として心にとどめ、消すことはできずに生きてきました。私は今に至るまで身体がだるくて疲れやすく、フツンの重さにも耐えられません。小さい頃からの耳鳴りも続いていますし、身体中に紅斑が出て消えません。

これ程進歩した人類のこの世界に、大量殺戮の核兵器が未だに根絶されることなく現存し続ける現実、今度のターゲットはいったい誰でしょうか？次はどんな可愛い子どもたちを殺すと言うのでしょうか！我々日本国民はピストルを持っておりません。ショットガンやライフルも、勿論核兵器もありません。日々平和で心穏やかに生きていますが、無理難題を追い払うために武装強化やむなしの風潮も時に湧き上がります。しかし日本人はただひたすら耐え我慢しています。

奇跡の地球を造って下さった自然と言う名の偉大な神様、その神様が

“生きていいのだよ、と授けて下さった尊い生命は、決して奪われてはならないのです。

国連は、地球上のすべての頭脳、英知の結集なのですから、一人ひとりの皆様が日々起きている残酷な現状や理不尽すぎる仕打ちを決して許さず、正義を貫き、弱者を一刻も早く救済して下さい。

世界の皆様、大量虐殺の核兵器は貴方に必要ですか？私、私の家族、美しい山や海、そしてそこで懸命に生きているすべての尊い生命たちのためにも、核兵器は絶対に根絶させなければならないのです。

70年も経て、0歳児に課せられた過酷過ぎる人生に、ただの一人も責任をとる人はいなかったのです。詫びの言葉も、ただの一度も聞いたことはありません。世界の指導者がすべて正義の人ならと皆が願っています。この先誰をも虐殺せず、後遺症という名の時間を70年以上も与え続けられないためにも、核廃絶は絶対に必要なのです。



原爆後遺症に苦しむ道民訴え

今すべきは核廃絶

原爆の悲惨さを伝える写真パネルの前で思いを語る田村さん(札幌市白石区の北海道ノモア・ヒバクシャ会)



かすむ 「平和」 安保法案

広島、長崎への原爆投下から8月で70年。戦後、後遺症に苦しみがたがたまってきた道内の被爆者が、集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法案に危惧の念を抱いている。世界では、米国で4月5月に開かれた核拡散防止条約(NPT)、再検討会議が決裂するなど、核軍縮は遅々として進んでいない。被爆者たちは「今、日本がするべきことは、戦争につながる法整備ではなく、唯一の被爆国として核廃絶に向けたリーダーシップを発揮することだ」と訴えている。(報道センター 竹中達哉)

「体がだるくて疲れやすい。布団の重さにも耐えられず、ずっと耳鳴りがする」。5月下旬、北海道被爆者協会の総会(北海道ノモア・ヒバクシャ会館(札幌市白石区平和通))を訪れた同市西区の田村寛子さん(70)は原爆の惨状を家から脱出した。

原爆の記憶はない。だが、幼いころから近時の話を聞かされ、母が飛行機の音を聞く度に「ひどい爆弾を積んできて、みんな散々な目に遭ったんだ」とおびえる姿を見てきた。

原爆投下から数年後、祖母が亡くなり、被爆時に8歳だった姉も36歳の若さで逝った。ともがんに苦しみ、壮絶な最期だった。「私もきっと50歳までに死ぬだろう」と、命の限界をすくすくと感じ続けてきた。

「日本はリーダーシップを」

道被爆者協会が4月にまとめた道内の被爆者の証言集で、初めて自らの体験と思いをつづった。「私は0歳の被爆者。70年間の過酷すぎる人生に誰も責任をとらず、わびの言葉もない」と怒りを込めた。

同協会によると、道内の被爆者は約360人。広島で被爆した室蘭市の元教員真田保さん(76)は今年、NPT再検討会議に初めて参加。高校生向けの講演やデモ行進で「核なき世界を」と呼びかけた。しかし、核保有国と非保有国の思惑が衝突し、会議は5月22日に最終文書案を採択できずに閉幕した。

真田さんが戦争体験の「語り部」となった原点は、広島市の平和記念公園の慰霊碑に刻まれた「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」との言葉。新たな安保法制の整備を急ぐ安倍政権の動きは、その誓いと逆行しているように感じる。「政府は『抑止力を高める』というが、信じられない。報復の連鎖を生み、原爆と同じように過ちを繰り返すのではないかと疑問を投げかける。

田村さんも同様に「ものすごく、きな臭い状況。一度と戦争をしてはいけないのに、自衛隊が戦地に行くなどありえない」と話す。